

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900755		
法人名	特定非営利活動法人八竜会		
事業所名	グループホームまどか		
所在地	熊本県八代市坂本町西部い2877-1		
自己評価作成日	令和3年 1 月 25 日	評価結果市町村報告日	令和3年 4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和3年 3月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

坂本のシンボルである球磨川と自然あふれるのどかな環境の中、毎日賑やかな笑い声と笑顔があふれている。桜やアジサイ、目の前にあふれる紅葉など四季を感じ、いつも見る風景の中に八代を感じて暮らしている。10月に行われる八代花火大会は、居室の中から歓声を上げながら、毎年新鮮な思いで鑑賞できる行事となっている。入居者同志が寄り添い、職員も側に寄り添い、“ありがとう・お互いさま”と声かけ合って毎日過ごしているまどかです。また活動、交流としては地域(古田地区)の方々に協力してもらい年2回の消防訓練や毎年恒例になっているボランティアの方々によるフラダンス・敬老会の催し物には地域の方々、ご家族、まどかⅡの皆さんと合同で楽しみ、交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

雄大な川の流れや四季の彩を楽しむことが出来る山々の景色を望み、地域と共に生活を営む入居者の生活が一変する水害を経験した令和2年度でした。法人体制の変化に伴い、理事長・管理者共に新しいホーム造りを踏み出した矢先の災害であったものの、社会福祉法人との連携が強固になったことで、事業所の再建、入居者の生活が戻った様子が聞かれました。従来から地域との連携も大きく、地域行事やボランティア来訪等での交流も見られていましたが、地域住民の高齢化もあり、入居者だけでなく職員も地域の一人として活動されている様子を窺うことができました。職員育成にも力を入れ、職員面談では理念に基づいたケアが継承されています。管理者は記録方法や業務内容を見直し、職務改善に取り組む体制もありました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会福祉法人、権現会及びNPO法人、八童会の理念を目のつくところに掲げ、朝の引継ぎの時に唱和、その後職場の教養(冊子)を参加者で拝読し業務に生かしている。	法人の連携先である社会福祉法人の理念とともにリビングに掲げ、毎朝唱和し、理念の共有及び実践に繋げている。朝礼時には毎日「職場の教養」についての感想を参加職員で述べている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入している。毎月の会議や適宜、清掃活動に参加したり、敬老会の行事等へのお誘いを受けたりしている。ホームの活動やボランティア訪問の交流会には参加を呼び掛け楽しんでもらっている。	毎月の地区の会議には理事長も地域の一員として参加している。今年度は開催や参加が難しい状況であったが、例年、隣接する神社での行事や季節行事、清掃活動等には職員も参加している。	従来から地域との関わりを大切にしていた生活が送られている様子が聞かれました。高齢化等により入居者の地域参加の場面が少なくなってきているようです。この状況が落ち着いた後は、是非入居者と地域の繋がりを感ずることの出来る取組みに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の会議の時に質問や疑問に答えたり、外へ行かれる方の思い、支援の方法など共に説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告として、新入居の方や退去された方の報告、ご家族の思いや意見、またホームでの取り組みの様子などを話し、そこから得た意見などをサービスに活かしている。	例年、地域住民や家族等、様々な立場からの参加がみられ、事業所の取組について意見交換や入居者との交流も図られる。今年度は感染症予防の面から書面報告のみとなっている。	今年度は感染症予防の面から書面報告のみである状況が確認できました。このような時期であるからこそ、多方面からの意見を得ることが出来るような工夫に期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メールや電話などで連絡を取り、入居者の現状や事業上のことなど、報告しながら連携を取っている。	今年度は感染症対策、豪雨による水害と苦難が続いた年であったため、普段の報告・連絡・相談も更に密であった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が周知している。判断に困ったり、疑問に困った時は朝・夕の引継ぎしお互いに話し合っけてケアにあたっている。玄関の施錠に関しては、防犯上の観点から職員2人(17時30分～7時)の間は施錠している。	身体拘束適正化検討委員会は第三者を交えた運営推進会議の後、開催している。今年度は感染症予防の面から3ヶ月に1回職員間で委員会を開催し、学び、共有している。玄関には「私たちは入居者の意思に反してその行動を制限しません」の掲示をし、事業所の姿勢を伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修やホーム内での勉強会で学び防止に努めている。3か月に1回は身体的拘束適正化検討委員会を外部者参加のもと開催し、参加できなかった職員には内容を管理者が説明し、共有している。		

グループホームまどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身近な問題としてとらえている。研修会や勉強会で学びながら、理解が深められるよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は、入居時にゆっくり時間をかけながら説明をしている。改定等があった時はその都度詳しく説明し、家族の疑問不安など理解・納得が得られるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望や意見・不満などを受け止める心構えは全職員が持っている。又家族が話し易い雰囲気作りをしている。	運営推進会議や家族の来訪、電話連絡等を利用し意見を出しやすい環境を作っている。今年度は感染症予防対策のため家族来訪の機会が少なくなったが、事業所からの電話連絡を多くすることで意見を得る機会を持った。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催しており、法人の理事長も参加し、意見や提案ができるようにしている。	毎月の職員会議において、業務・運営に関する意見・提案を述べる事が出来る。職員は日々の業務中にも管理者へ意見・提案を伝える事が出来る環境であり、必要に応じ管理者は法人へ伝え、検討を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や職務に対する意欲、研修への参加状況や参加意欲などがあれば受け止め対応している。年2回の自己評価により、振りかえりを行い目標を立て今後に生かしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域のグループホーム連絡協議会主催の研修や、その他の研修などへの参加、また資格取得への道も勤めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の連絡協議会主催の研修や懇親会への参加、また権現会内のGHと一緒に花見を行い交流を図っている。		

グループホームまどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時や入居の時本人の思いや不安を聞いたり察したりすることで受け止めている。入居後は一日でも早く慣れてもらえるよう一緒に行動している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや不安を聞き、要望などは何度も確認し話し合うことで、安心感を持ってもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の段階で本人が必要としている事、家族が要望していることを再確認し実行できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ここのレベルに応じた家事や趣味を見極め、お互いに声を掛け合っ一緒に行動している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度日常生活の報告をしている。遠方に住む家族には報告を兼ねて電話をしたり、外出や外食の時には支援の仕方を知らせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居住していた地区の行事に出掛けたり、友人や知り合いの方にはいつでも寄っていただけよう声をかけている。	例年、行事を利用した地域への外出や地域から来訪、ボランティアの来訪等も馴染みのものとなっている。今年度は外出による馴染みの関係継続が難しい状況であったが、窓越しの面会等の工夫により支援を行った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者1人ひとりの個性や性格を見極め、行動や活動ができるようにしている。入居者間では出来ない事を手伝うことが自然に出来ている。		

グループホームまどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には適宜お見舞いに行っている。退去されたご家族からも相談を受けたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中から把握するようにしている。入居後家族から得ることもあり、家族と相談しながら本人の要望や希望に添うようにしている。	日々の生活の中で、入居者への寄り添いで意向を把握している。現状、意思の表出が出来る入居者も多く、要望に沿った暮らしが出来るよう、家族とも相談をしケアを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や知人の面会の時に、新たに生活歴や暮っていた時の状況を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況やさりげない会話の中から、1人ひとりの暮らし方への思いを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時は家族や関係者から情報を得、暫定プランを作成し1ヶ月後にプランを作成している。毎月の職員会議でのカンファレンスや3ヶ月毎のモニタリング等で、変化があった時はその都度プランを作成している。	日々の生活の記録を基に職員会議でカンファレンス・モニタリングを行っている。会議での職員の意見、家族・入居者の意向をもとに計画作成を行っている。介護計画の見直しは基本的に年2回行い、状況の変化時には都度対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録で共有している。重要なことは何度も報告し合い、計画の見直しもしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の要望があれば一緒に通院している。入居者の家族が入院している時は、一緒にお見舞いに行ったり、買い物希望がある時は一緒に出掛けたりしている。		

グループホームまどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々だったりホーム全体だったりで支援している。また馴染みの人たちやボランティアの人たちにも協力してもらいながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々に月1回及び2回の往診体制が出来ている。家族希望の通院では、日常の様子を主治医に報告し連携を図っている。時には家族と共に通院に同行することもある。	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援しており、現在、4医院程のかかりつけ医からは殆ど往診を受けている。専門医受診等では家族の協力も得ながら情報の共有を図っている。入居者の状況によっては訪問看護も受入っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護があるのでその時に状態報告をおこなっている。市内に社会福祉法人権現福祉会の訪問看護所長が勤務しており、気付きや情報の報告をしている。必要に応じ受診への対応も出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看介護情報提供書を提出している。頻りに面会に行き、主治医や担当看護師から情報を貰い、病状の把握や、早期の退院に向けた話し合いやを行っている。退院後に向けたケアや処置等の話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問看護ステーションとの医療連携体制を取り、重度化や終末期ケアを導入している。その為に必要な研修を通じ家族と共有しながら、体制作りを行っている。	実際にその時を迎えた際には、入居者・家族の意向を第一として、訪問看護の受入れや担当医師他との連携のもと、入居者にとっての最善の生活に向け都度話し合いを重ねながら支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法や事故発生時の対応について外部での研修に参加している。急変時の対応については、ホーム内研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理担当者の指示で年2回防災訓練を行っている。避難確保計画書を作成し、関連機関と共有し、年2回の避難訓練を行っている。	年2回の防災訓練を行っており、例年、運営推進会議を通じて地域への協力も依頼している。昨年の水害・台風時には早めに関連事業所へ入居者の避難を行った。水害ではライフライン断絶だけでなく建物も被害を受けたが、法人連携のもと、入居者の安全を第一に職員一丸となって動いた。地震に備え、防災頭巾を玄関に備えている。	

グループホームまどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	難聴の方への声かけが本人には怒られているように聞こえたり、何気なく言った言葉が本人にとって傷つく言葉だったり、日々の支援の中でお互いに話し合うことで対応をしている。	特にトイレ利用時や入浴時等、声の大きさや声掛けの仕方、また扉の開けっ放し等、日常生活の中での職員対応について気になる事例が見られた際には、管理者から声掛けを行っている。気になる際には管理者もケア入ること職員間の気づきにも繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者同志や職員との話の中で把握している。自分の思いを積極的に表出出来ない入居者の方に対しては、会話の機会を多くつくり、思いを表せるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせている。希望の内容によっては、話し合いをしながら希望に添えるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を導入している。入浴時の衣類に関しては、本人に用意した衣類の確認をしてもらっている。衣類の購入に関しては、家族との話し合いでホーム側が購入の手伝いをすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事をしている。その上で本人の好き嫌いや咀嚼の状況について確認をしている。テーブルセッティングや後かたづけなども適宜一緒にしている。	法人で立てられた献立により、事業所内で手作りの食事を提供している。毎月法人で会議を行い、食事に関する意見・要望を伝えることが出来る。職員も同じ食事で共に食卓を囲むため、入居者の日々の様子や変化にも細かな対応が出来る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事の摂取量や飲水量を記録している。量に変化がある時は、好みに応じた物や変わるものを提供している。夜間も就寝前に水分飲用をして貰い脱水予防につなげている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけと誘導をしている。自分で出来ない人は職員が援助し、夜間は義歯を預かり洗浄液に浸漬し管理している。		

グループホームまどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄シートを作成し、排泄パターンを把握している。入居者ごとに随時の声かけや誘導をしたり個別の対応を行っている。	排泄チェックシートでのパターン把握とともに声掛け等で、現在は日中はトイレでの排泄を支援している。夜間のトイレ利用もあり、安全に配慮しながら支援を行っている。便秘予防のための食事、水分補給等にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートで排便パターンを把握している。10時のバナナヨーグルトと15時の牛乳、食事には管理栄養士のメニューに基づいた食物繊維の多い食品が使用されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜以外の午後を入浴に充てている。受診や往診時は曜日を変更したり、気分により希望される方に支援している。	入居者の予定や体調も考慮し、週2回午後の入浴を基本としている。入浴の拒否が見られる際には、声掛け等工夫し、日程をずらす等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況により、午睡をする方や居室で休養する方など、個々に対応している。適宜寝具を天日干しし、安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は個人記録の中にセットしている。変更があった時は日誌や個人記録に記入し、口頭でも職員に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から得た習慣や趣味を取り入れている。数合わせレクや職員と一緒に将棋をして楽しんでいる。また床のモップ掛けでは達成感や充実した様子もうかがえる。今後は庭の掃除や畑作業も取り入れる予定である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候を見ながら庭での散歩や、別ユニットへの訪問などを行っている。家族による自宅への帰省や近隣及び馴染みの方との交流も支援している。	今年度は感染症対策に加え水害被害もあり、その日の希望に沿った気軽な外出は難しい状況であった。ドライブ等の計画による季節行事や祭り見学もできなかったため、日々の散歩や外気浴を利用し、外出の機会とした。	

グループホームまどか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いで、少額であれば自分で管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添い対応している。家族様から状態確認の電話があった時は、会話が困難でも職員を介して笑い声等を家族に聞いてもらい双方安心してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに手造りの展示物、廊下には季節ごとのタペストリー、人形の展示などを行っている。夏期はすだれを利用し、おり紙の展示なども行っている。	玄関には季節の花が飾られ、季節を感じる飾りがされている。日中、入居者はリビングで過ごすことが多くっており、食事作りの様子を感じたり、歌を歌ったりボール遊びをしたりと、思い思いのソファや椅子で過ごす入居者の様子がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや玄関先のベンチ、廊下の椅子など、思い思いの場所で過ごせるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	亡き夫の写真や、家族や友人と撮影した写真などを飾っている。手造りの制作物や絵なども飾っている。	従来から事業所では「グループホームは我が家である」の考えのもと運営されており、家族写真や手作りの品が持ち込まれている。居室にはエアコンに加え空調器も完備されており、毎朝窓を開け換気している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すり、トイレのドアへの表示など、1人で出来る力を活かせるようにしている。		

2 目 標 達 成 計 画

グループホームまどか

作成日 令和 3年 4 月 1 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	今年度はコロナ禍による感染症対策として運営推進会議は書面による報告のみであった。	運営推進委員の皆様からの意見抽出を行う。	コロナ禍で参加型の運営推進会議開催が難しい場合は会議録の送付時、アンケート用紙を同封し意見をいただく。	12ヶ月
2	2	コロナ禍で地域の皆様方に参加してもらっていたイベント等が中止となり交流を図れなかった。	状況を見ながら地域の皆様との交流を図る。	状況を見てイベントや地区の行事などの開催が出来るようになったら地域の皆様にお声掛けをしながら交流を図る。	12ヶ月
3	49	コロナ禍や高齢化も加わり楽しみ事や気分転換を図る活動支援が少なかった。	コロナ禍や利用者様の状況をみながら室内・戸外での活動や楽しみ事を多くつくる。	年間の計画として毎日のTV（ラジオ）体操・季節の野菜の植え付け、収穫の参加・見学、季節の行事等の活動を行う。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。